



会場の様子

平成二四年一〇月二一日
(目) 神戸芸術センター芸術劇場
場で「ひょうご消防のつどい
二〇一二」が開催されました。
このつどいは、兵庫県下の
消防本部・消防団の幹部や自
主防災組織の代表等が共に集

い、永年にわたり従事してきた
功績を讃えた表彰を行うこと
もに、研修を行い、士気の高揚
と知識・技術の研鑽を深める
ことを通じて消防防災機関の
連携体制を確立することを目
的に実施しているものです。

消防団・消防本部の幹部、自主防災組織代表者等、
約六〇〇名が神戸芸術センターに



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 井戸 知事

消すまでは
出ない行かない
離れない

ひょうご消防のつどい2012 開催

次第

第一部
開会のことば
(北井副会長)

国歌吹奏
兵庫県消防協会あいさつ
(岸谷消防協会長)

兵庫県知事式辞
(吉本副知事)

表彰
兵庫県知事表彰・感謝
兵庫県消防協会長表彰・
感謝

来賓祝辞
(藤原県議会議長
嶋消防長会会長)

受賞者代表謝辞
(神戸市消防局
消防司令長 谷本 裕幸)

第二部
講演
「東日本大震災に学ぶ
〜今できる地域の備え〜」
特定非営利活動法人
神戸まちづくり研究所
理事 野崎 隆一

開会のことば
(岸本副会長)
司会進行
三田市消防団
樽口知加



岸谷協会長
あいさつ



開会のことば
北井副会長

第二部では特定非営利活動
法人神戸まちづくり研究所理
事の野崎隆一氏に「東日本大
震災に学ぶ〜今できる地域の
備え〜」と題し、講演をいた
しました。
阪神・淡路大震災や昨年三
月に発生した東日本大震災を
踏まえ、これまでのご自身の
経験や現地での活動から今後
の備えるべき内容などを講演
いただきました。各地の復興
状況など、現地の写真を交え
た臨場感ある講演はとても分
かりやすく、今後の各地域で
の防災活動に役立つ内容で、
非常に有意義な時間となりま
した。



開会のことば
岸本副会長



吉本副知事
式辞

今年度の表彰の栄に輝いた
団体・個人は次のとおりです。
兵庫県知事表彰
○表彰旗
神戸市東灘消防団
○竿頭綬
宝塚市消防団
豊岡市但東消防団
新温泉町消防団
○功労章
消防団員 五〇名
消防吏員 七五名
○永年勤続功労章
消防団員 二二三名
消防吏員 一一五名
○表彰状
婦人消防隊の部 一団体
優良自主防災組織
団体の部 八団体
個人の部 三名
兵庫県知事感謝
○家族の賞
消防団員の部 五〇一名
消防吏員の部 六五名
○親子二代の賞 二組

○消防協力者賞
個人の部 二名
事業所の部 二団体
兵庫県消防協会長表彰
○表彰旗
市川町消防団
○竿頭綬
神戸市水上消防団
姫路市姫路東消防団
加西市消防団



表彰旗授与

○功績章 一三五名
○精積章 二一八名
○勤続章 三七九名
○精勤章 四三五名
兵庫県消防協会長感謝
○家族の賞
三〇年以上 一三二名
四〇年以上 二〇名
五〇年以上 一名



代表謝辞



第2部 講演の様子



南あわじ市消防団 操法の様子

第二三回 全国消防操法大会

南あわじ市消防団、惜しくも入賞逃す

全国消防団の中から操法技術ナンバーワンを決める第二三回全国消防操法大会が東京臨海広域防災公園(東京都江東区有明)で一〇月七日(日)に開催されました。全国各地から集まった出場隊、応援者、来場者により会場を埋め尽くしました。

各都道府県の大会を勝ち抜いた精鋭達(ポンプ車の部二四隊、小型ポンプの部二三隊)が、雨の降るなか、その卓越した操法を披露し、会場を沸かせ、熱気に包まれました。

兵庫県からは、南あわじ市消防団がポンプ車の部で九番目に操法を披露しました。兵庫県代表として南あわじ市消防団は基本を身に付けた素晴らしい操法を披露されました。その結果、入賞が見込める総合得点一七五・五点を獲得しました。しかし、岐阜県恵那市消防団、大分県九重町消防団が南あわじ市消防団と同得点であったため、大会規則で定められている第一線・第二線延長に係るタイムの短いものから順位付けとなりました。タイムは南あわじ市消防団が一・一五・四二、岐阜県恵那市消防団が一・一三・三五、大分県九重町消防団が一・一六・七六であったため、タイムの早かった岐阜県恵那市消防団が上位となりました。

その結果、南あわじ市消防団は一位となり、優良賞の対象となる一〇位から惜しくも外れる形となりました。今回全国大会に出場された南あわじ市消防団の皆様、応援や各種サポートをいただいた関係者の皆様お疲れ様でした。

なお、今回出場された南あわじ市消防団榎本団長からお礼の言葉を寄稿いただいているほか、大会結果を掲載しています。



大型ディスプレイで場内を表示

大会次第	
一	選手団入場 (九時〇〇分)
二	開会式 (九時一五分)
①	日本消防協会旗入場
②	開会宣言
③	国旗掲揚
④	優勝旗返還
⑤	主催者挨拶
⑥	来賓祝辞
⑦	歓迎の辞
⑧	競技上の注意
⑨	選手宣誓
三	選手団退場
四	操法開始 (一〇時〇〇分)
五	休憩
六	操法終了
七	消防団による震災対応訓練表彰式 (一六時〇〇分)
八	表彰式
①	審査結果発表
②	表彰
九	閉会式 (一六時二〇分)
①	万歳三唱
②	国旗降納
③	閉会宣言

第23回全国消防操法大会成績順位表 (小型ポンプの部)

種別	都道府県	消防団名	総合得点	タイム
優勝	長崎県	いきしょうぼうだん 壱岐市消防団	89.00	41.97
準優勝	高知県	もみやましょうぼうだん 本山町消防団	88.00	41.40
準優勝	福岡県	ふくおかしがしょうぼうだん 福岡市東消防団	88.00	41.72
準優勝	静岡県	しずおかしょうぼうだん 静岡市消防団	86.00	41.54
優秀賞	茨城県	あみまちしょうぼうだん 阿見町消防団	85.00	41.86
優秀賞	鳥取県	よなごしょうぼうだん 米子市消防団	84.00	42.54
優秀賞	三重県	すずかしょうぼうだん 鈴鹿市消防団	83.50	42.10
優秀賞	長野県	まつもとしょうぼうだん 松本市消防団	82.00	43.34
優秀賞	秋田県	みたねちょうぼうだん 三種町消防団	81.00	42.05
優秀賞	埼玉県	おがのまちしょうぼうだん 小鹿野町消防団	81.00	42.70

第23回全国消防操法大会成績順位表 (ポンプ車の部)

種別	都道府県	消防団名	総合得点	訓練・第2部の合計タイム
優勝	岡山県	わけちょうしょうぼうだん 和気町消防団	187.00	109.11
準優勝	広島県	ふくやましょうぼうだん 福山市消防団	184.00	113.67
準優勝	東京都	ひのでまちしょうぼうだん 日の出町消防団	183.50	109.73
準優勝	群馬県	ぬまたししょうぼうだん 沼田市消防団	182.50	113.95
優秀賞	愛知県	おおぶしょうぼうだん 大府市消防団	180.00	110.18
優秀賞	滋賀県	やすししょうぼうだん 野洲市消防団	179.00	113.50
優秀賞	千葉県	きみつしょうぼうだん 君津市消防団	178.50	110.94
優秀賞	石川県	かほくしょうぼうだん かほく市消防団	177.50	115.30
優秀賞	鹿児島県	なかたねちょうぼうだん 中種子町消防団	177.00	114.13
優秀賞	岐阜県	えなししょうぼうだん 恵那市消防団	175.50	111.35

第23回全国消防操法大会 優秀選手 (小型ポンプの部)

種別	都道府県	消防団名	隊員名
指揮者	秋田県	みたねちょうぼうだん 三種町消防団	しんほり 新堀 ひとり
1番員	秋田県	みたねちょうぼうだん 三種町消防団	たむら 田村 ゆうと 悠人
2番員	富山県	たかおかしょうぼうだん 高岡市消防団	はやし 林 あきら 聡
3番員	徳島県	あなんしょうぼうだん 阿南市消防団	はら 原 せいいち 誠一

第23回全国消防操法大会 優秀選手 (ポンプ車の部)

種別	都道府県	消防団名	隊員名
指揮者	宮城県	とめしょうぼうだん 登米市消防団	かたやま としひこ 片山 俊彦
1番員	広島県	ふくやましょうぼうだん 福山市消防団	あざり みつてる 浅利 光輝
2番員	愛媛県	いかたしょうぼうだん 伊方町消防団	みよし のりひこ 三好 教彦
3番員	岡山県	わけちょうしょうぼうだん 和気町消防団	にった あきひろ 新田 章博
4番員	石川県	かほくしょうぼうだん かほく市消防団	よした たつや 吉田 達也

お礼の言葉

南あわじ市・榎本団長

このたび、第二三回全国消防操法大会出場(ポンプ車の部)に際しましては、物心両面にわたりご支援、ご協力をいただき心からお礼申しあげます。

南あわじ市消防団は兵庫県代表として、県内消防団員の熱い思いを胸に消防団一丸となって全国大会に初出場しました。結果としては、目標としていた全国大会優勝は

出来ませんでした。自分たちの力を出し切ることができたと考えております。選手・応援団員ともに、全国大会で大きな感動を味わうことが出来ました。これも、皆様方のご支援のお陰であり、心から感謝いたします。

今回の全国大会出場で得た貴重な経験を生かし、なお一層の精進を重ねてくれることと思えます。

益々のご指導、ご鞭撻のほどお願い申しあげ、お礼の言葉とさせていただきます。



第三一回全国消防殉職者慰霊祭

第31回全国消防殉職者慰霊祭

主催 財団法人日本消防協会 後援 消防庁



追悼のことば

第三一回全国消防殉職者慰霊祭が、平成二四年九月一三日、日本消防会館ニッショーホールにおいて、厳粛に執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に郷土愛護の精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消防・救急活動を行い不幸にも殉職された全国の消防団員・職員及び一般協力者の方々です。

祭壇には、今回あらたに当県の二柱を含む、七柱の御霊が合祀され、あわせて五、六六二柱が奉納されました。

式典には当県から、岸谷会長をはじめ新合祀遺族六名が参列し、御霊の奉納が行われ、黙祷を捧げた後、秋本日本消防協会長の式辞、野田内閣総理大臣から追悼のことばに続き、遺族代表として、神戸市の金谷ゆかり様の追悼のことばがありました。

その後は参列者が故人の冥福を祈り献花を行い、江戸消防記念会から鎮魂の歌(木遣り)が披露され、式典は厳かに滞りなく終了しました。

平成二四年度秋季全国火災予防運動

消防庁予防課

消防庁では、
『消すまでは
出ない行かない
離れない』

を平成二四年度全国統一防火標語とし、平成二四年一月九日(金)から一五日(木)までの七日間にわたり、平成二四年度秋季全国火災予防運動を実施しました。

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たって、火災予防思想の一層の普及を図り、火災による死傷者及び財産の損失を防ぐことを目的として、「一九九番の日」である一月九日に毎年実施されているものです。

火災予防運動の実施に当たって、次の四点を重点目標として掲げられました。

- ① 住宅防火推進
- ② 放火・連続放火防止対策の推進
- ③ 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
- ④ 製品火災の発生防止に向けた取組の推進

空気が乾燥し、火災が発生しやすい時季となつてま

いります。この運動を機に地域住民に対し、日頃忘れがちな火災に対する注意喚起を行い、一人ひとりに防火の重要性を伝え、日常生活での防火の実践を働きかけましょう。

住宅防火

7つのポイント

三つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるとき

四つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力的体制をつくる。



平成24年度 近畿府県 合同防災訓練実施



参集!

平成二十四年一〇月二八日(日)に神戸市中央区にある神戸空港島をメイン会場として実施されました。

この訓練は「近畿二府七県危機発生時の相互応援に関する基本協定」に基づいて近畿府県持ち回りで毎年実施されており、今回は大規模災害に対応するため平成二十四年三月に策定された「関西防災・減災プラン」に基づく初めての合同防災訓練として、近畿の各自治体、消防、警察、自衛隊、病院、民間企業、住民など約一八、〇〇〇人が参加し、兵庫県で実施されました。また、併せて緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が一〇月二七日(土)から二八日(日)にかけて実施されました。

近畿府県合同防災訓練は、和歌山県潮岬沖を震源とするマグニチュード九の巨大地震が発生したとの想定で、多数の家屋倒壊、津波被害に対応するため、トラックや重機、海上自衛隊護衛艦、各機関消防防災ヘリコプターなどを用い、救助や救急活動等に関する実践訓練が行われました。また、メイン会場以外でも住民参加型訓練として、防波門の一斉閉鎖訓練や避難誘導訓練が行われました。

雨の降るなか、各防災関係機関が大規模災害時に備えた訓練を実施し、相互の連携強化や防災体制の充実強化を図りました。

なお、各会場では次の訓練内容が実施されました。

一〇月二七日(土)

○緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練

「県災害対策センター・姫路市消防局」

① 図上訓練

・ 応援要請等情報伝達訓練

・ 消防応援活動調整本部設置・運営訓練

・ 警防本部及び指揮支援本部設置・運営訓練

② 初動訓練

・ 迅速出動訓練

・ 先遣隊及び県内応援隊合同訓練

・ 参集訓練

③ 野宮訓練

一〇月二八日(日)

○近畿府県合同防災訓練

「神戸空港島」

① 部隊運用訓練

・ 消防応援活動調整本部設置・運営訓練

・ 警防本部及び指揮支援本部設置・運営訓練

・ 先行調査・情報収集訓練

・ 多重衝突事故・毒劇物漏洩事故対応訓練

・ 危険物災害対応訓練

・ ビル倒壊事故対応訓練

・ 大規模街区火災訓練

・ 倒壊家屋対応訓練

・ トンネル崩落対応訓練

② 総合防災訓練

・ 災害対策本部設置訓練

・ 避難誘導訓練

・ ヘリによる情報収集訓練

・ 道路啓開訓練

・ 医療救護所設置運営訓練

・ 広域応援訓練

・ (緊急派遣チーム派遣、現地支援本部設置運営、広域医療搬送拠点設置運営等)

・ ライフライン復旧訓練

・ (電力応急復旧訓練、電話回線復旧訓練等)

○住民参加型訓練(実施市町)

・ 神戸市

・ 明石市

・ 洲本市

・ 南あわじ市

・ 淡路市

・ 播磨町

・ 漂流者訓練、洋上救護所設置運営訓練等)

・ 展示訓練

・ 訓練内容を大画面で表示



訓練内容を大画面で表示



医療救護所内の様子



図上訓練の様子(緊急消防援助隊)

・ 孤立集落対策(負傷者搬送訓練、救援物資搬送訓練)

・ 海上訓練(情報伝達訓練、洋上)

- (主な訓練内容)
- ① 情報伝達訓練
 - ② 防波門閉鎖訓練
 - ③ 避難誘導、要援護者避難訓練
 - ④ 応急救護訓練
 - ⑤ 救援物資搬送訓練
 - ⑥ 救援物資配布訓練
 - ⑦ 重篤患者搬送訓練
 - ⑧ 体験型訓練(起震車・煙道・給水体験など)
 - ⑨ 防災啓発展示



トンネル内多重衝突事故救助訓練



海上自衛隊護衛艦「ひゅうが」



毒劇物漏洩事故対応訓練



緊急消防援助隊野営訓練
(消防庁長官による激励巡視)



←空中消火



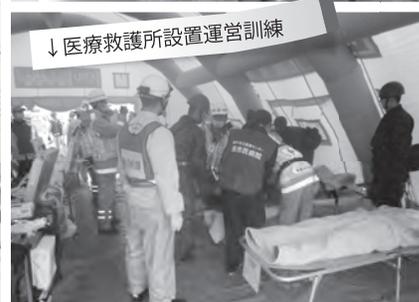
県広域防災センターでの訓練の様子



ライフライン復旧訓練↑



ヘリの運航管理↓



↓医療救護所設置運営訓練



平成24年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練
前線進行の恐れあり破壊不能



救助訓練の様子↑



トリアージ



被害地域の記入



閉会式の様子



本番さながらの緊張感!



**昼間の出動体制を強化!
(即時対応の機動隊結成)**

三木市消防団

三木市消防団では、平成二十四年四月一日に消防本部訓練場において消防団員五三〇名が集合し、九隊目の機動隊が発足したのを受け「機動隊結成式」を行い、災害対応への決意を新たにしました。

機動隊は、これまでの消防団活動のスタイルを変え、消防団として一歩を踏み出しました。減少傾向にあ



機動隊結成式 (平成24年4月1日)

る消防団員の確保はもちろんです。組織の強化により初動体制を確保し、自治会や地域の枠を越え全市の即応できる消防団として結成され、平日の昼間における災害対応能力の向上を図っています。

【機動隊結成の背景】

① 消防団は、昔からそれぞれの自治会で育てられ地域に密着した活動を行ってきましたが、少子高齢化、若者の田舎離れ、地域の希薄、消防団員のサラリーマン化などにより団員確保が難しくなる中で、平成七年に発生した阪神・淡路大震災以降、これまでの消火活動にとどまらず、大災害時における救助や避難誘導は勿論、行方不明者の捜索活動やイベント警備など多種多様に住民の期待は大きくなってきています。

② 当市消防団

における、消防団員の被雇用率は九三%、勤務中の災害に出動出来ない団員は七六%、その理由として「仕事に忙しい」や「欠勤扱い」や「勤務先の了解が得られない」などが七〇%を占めており、このまま推移すると平日の昼間における消防団の組織力低下も懸念されます。

③ 現在当市消防団は、六地区(旧村単位)三八分団一〇三班一三三五名で構成されています。それぞれの分団・班の管轄地については、所属する地区及び分団内を基本としており、全市的(消防団組織の無い新興住宅地などを含む)に管轄地を越えて即時対応できる隊の設置が望まれています。また、昼間出動出来ない消防団員の増加を受け、各地区内での昼間の初動体制の確保が急務でもありました。

これまでの機動隊は、消防車両もなく手引きポンプしかなかった昭和四〇年台に地区の機動力を図るため設置されたものですが、今後は管轄地を越え即時出動し災害対応を担う機動隊として役割は大きなものがあります。



建物火災防御訓練



倒壊家屋救出訓練

【機動隊の状況】

① 九隊一六〇名で編成
② ポンプ車三台、小型動力ポンプ付積載車五台、救助資機材搭載型消防車一台(総務省消防庁無償貸付)

【機動隊の訓練の取り組み】

平成二四年三月には、一次訓練として、水利事情の悪い地域における密集地火災や広範囲に延焼している林野火災を想定して、九隊合同の長距離中継による建物火災防御訓練を実施しました。

二次訓練は、総務省消防庁から無償貸し付けを受けている救助資機材搭載型車両を使用して、震災等での倒壊家屋からの基本的な救出方法や現場での隊員の安全確保等について手順を確認し、災害時への備えを強化しました。

三木市消防団では、災害に即応できる実践的な訓練を通して技術向上を図り、市民から親しまれ信頼される消防団を合言葉に、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを今後とも努力してまいります。

「災害を教訓に」

宍粟市消防団

ます。

主要な活動は四月の消防出初式に始まり幹部訓練、水防工法訓練、操法大会、火災予防運動広報パレード、普通救命講習会、年末火災特別警戒等、地域に根差した活動に取り組んでいます。

また、各町で実施している地域防災訓練では自主防災会と連携し地域防災のリーダーとして積極的にかかわり消防団活動の強化及び防災意識の高揚を図ることを目指しています。



小型ポンプ操作講習

平成二二年四月一日に山崎消防団、一宮消防団、波賀消防団、千種消防団を統合し宍粟市消防団が誕生しました。町村合併により宍粟市の面積は六五八・六平方kmという広域な地域となっています。春名団長以下三〇分団一一三部で組織され、団員数は一、七四三名で消防ポンプ自動車二〇台、小型ポンプ付積載車七台、小型動力ポンプ一八台を配備し地域の安全・安心を守っています。各分団では、機械器具の定期点検のほか、火災発生を想定した消火訓練を実施するとともに、日頃から地域を巡回し火災予防広報を行って

平成二二年八月には台風九号による大雨により、市内各地で家屋などの浸水被害が約一、〇〇〇件、道路の不通、ライフラインの寸断などが多発し避難者数は二、一五八名におよびました。この大きな被害をもたらした災害の中で、自主防災会の指示による住民避難行動がいち早く行われたことで、幸いにも死者・行方不明者はありませんでした。



普通救命講習

消防団員は真夜中に召集され夜を徹しての活動中に固定電話、携帯電話が不通となり行政からの情報提供も得られない中での活動となりました。団本部との連絡も取れない中、分団長・部長の指揮のもと避難者誘導にあたり安全に住民を避難させることができました。これまでに経験したことのない水災害における活動は今後の消防団活動の課題が明らかになりました。これまでは、消火活動に特化した訓練内容になりがちでしたが、最近のゲリラ豪雨等の自然災害に対応する訓練と団員の安全確保のための装備の充実など消防団活動の強化のための取り組みが必要であるということです。今後、団員確保に務め地域の皆さんと協力し期待される消防団として訓練の充実を図るとともに団員は「志操堅固」にして資質の向上を目指していきます。



水防工法訓練

わが町の団長さん

「宝は良き仲間」

姫路市姫路西消防団長

大塚 秀祐



姫路西消防団は、姫路市の西部を管轄する消防団で一六分団、団員数五九三名で組織されています。管轄地域の中でも、古刹で有名な書写山圓教寺は、康保三年（九六六年）性空上人によって開かれた、比叡山と同じ天台宗の修行道場の寺で、西国二七番札所となっています。海拔三七メートルの風光明媚な書写山の山上には、東西に一キロメートルの細長い形で山間を利用して建物が点在し、映画やテレビの撮影に使われるなど全国から多数の観光客が訪れています。

大塚団長は、昭和五十三年一月に姫路西消防団白鳥分団に入団され、平成一〇年四月に新設された峰相分団の初代分団長に、平成一四年本部付分団長を経て、平成二〇年副団長に、そして平成二四年四月から姫路西消防団長に就任されました。

団長は、消防活動で何事も率先し、災害現場では、陣頭指揮を執られ、団員からも全幅の信頼を得られています。

日頃は温厚篤実な人柄で、

特にお孫さんの話になるとうれしそうに眼を細められます。趣味は、家庭菜園と月に数回のゴルフ。腕前はソコソコとのことですが、仲間とワイワイと楽しく回るのがお好きとの事です。特技は、なんと意外にも料理だそうで、中でもカレーライスがご家族からも評判の一品です。

ほかにも地区協議員や祭りの役員と地域に貢献され、地元においても必要不可欠なお人です。

消防団に携わるようになって、峰相分団発足には大変なご苦労をされましたが、沢山の良き仲間が増えたことが何事にも代えがたい宝との事です。全国的に消防団員が減少する中で、今後、各自自治会と連携した活動に取り組み、若年層及び女性の入団を呼びかけ、地域の要として尽力したいと抱負を抱かれています。

「信頼される消防団」

加東市消防団長

大畑 康洋



加東市は、兵庫県中央部のやや南よりに位置し、平成一八年三月に社・滝野・東条町

が合併し誕生しました。

「山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち 加東」をめざしまちづくりが進められています。

加東市消防団は、一二の小隊、七五分団、団員数一、二二六名で構成され、消防車両は、ポンプ自動車六台、小型動力付積載車七一台で市内全域の防災に努めています。

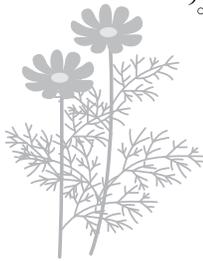
団員の資質や消防技術の向上を図るため、各種訓練を実施。また普通救命講習会、人権学習などを行い、幅広い知識の習得・人材育成にも力を入れています。

大畑団長は、昭和五五年に入団され、平成三年三月に退団されるも、平成一五年に副団長としてカムバックされ、平成二四年四月から団長に就任されました。

電気工事業を営まれており、社員さんからは全幅の信頼を受け、自らも徹夜で仕事をされることも。日々仕事で忙しい中、合間をぬってシンドルの腕前である趣味のゴルフに高じられています。

日頃は温厚で物静かな方ですが、何かあれば、自ら先頭に立って行動されます。

消防団活動では、加東市民の幸せを考え、安心・安全な生活を送れるよう、地域に密着した住民に信頼される消防団を目指したいと思っております。



われら若手消防団員

消防団に入団して

西宮市消防団芦原分団 団員

白川 拓朗



私の入団のきっかけは職場の先輩の勧誘でした。当時は消防団と消防署との違いも、消防団の必要性も、何も分かっていませんでした。誘われるがまま参加したのですが、思った以上に有事と言うのは少なく、地域の活動にボランティアで出て防災をアピールしたり、有事があった際に迅速に行動できるよう訓練ばかりでした。

少し肩すかしをくらったような、安心したような複雑な気持ちでしたが、先輩に「火を消すのが大事ではなく、火を出さない事が大事」と言われ感銘を覚えました。地域の方々の防災のリーダーになる。そして有事の際には訓練で蓄えた力で、いち早く、少しでも地域の方々の力に、支えになれるように努める事が消防団員としてのあり方だと思っています。

しかし、残念な事に若い世代、特に一〇代から二〇代の方々には私と同じように、何故に消防団が必要かを知らない人も多くいると思います。スマートフォンやブログ、ソーシャルネット等、現代の若者に合わせた防災のアピールを今後は考えて行かなければならないと思います。

「火を消すよりも火を出さない事が大事」この言葉は私の一生の宝です。今後も地域の方々と一緒に安全で安心した生活ができる町を創って行けるよう努力して行きたいと思っています。

「女性力」を地域のために



あわじ市消防団南消防分団 青石 晴菜

なでしこ分団は平成一九年一二月に発足しました。南あわじ市男性消防団の方とはとても熱心に活動されていますが、その中で女性も地域防災のために出来ることはないかと思っていました。そのような折、女性消防団発足の知らせを聞き、私は入団を決めました。とはいえ当初団員は二名で、思うような活動ができ

たが、男性幹部の方々、消防署の方々、そして市役所の方々が「女性にしか出来ないことがある。女性の力が必要だ。」といつも励まし支えてくださいました。

また、地域の方に「いつもありがとう。がんばって。」と声を掛けて頂く度に、「入団して、本当に良かった。」と感じました。そうしているうちに団員数もいつしか二〇名まで増え、活動が活発になりました。

私達は地域の防災を男性とは違う方向から支援し、市民のみなさんの安心、安全を守りたいという強い気持ちで、「女性力」を発揮していきたいと思えます。

また、現在力を入れている



救命講習会の様子

地域のお知らせ

洲本市

『洲本市由良地域 防災マップ・マニュアルづくりに向けて』

洲本市由良地域では、自らの地域を自ら知り、地域の課題や特徴、災害への対応・抑止力を認識、また、共有し地域防災力の向上を図ることを目的として、防災マップ・マニュアルづくりに取り組みました。その取り組みについて、ご紹介します。

五月一九日に町内会役員などが参集し、第一回目の協議会を開催しました。この協議会では、地域の防災と減災対策や安全安心なまちづくりについての調査研究、また、住民に対する普及啓発などを主な事業として取り組まれている「NPO法人ひょうご地域防



課題などを話し合った「ワークショップ」



力の入った話し合いの様子

災サポート隊」により講演をいただきました。この講演の内容を参考にしながら、今後の作業などについて話し合いました。また、効率的に作業を行うため、由良地域の地理的な面などを総合的に勘案したうえで班編成を行いました。六月三〇日に第二回目の協議会を開催し、班別で「まち歩き」と「ワークショップ」を行いました。まち歩きでは、避難場所の特定、避難路における倒壊の恐れがある建物、また、標高表示板の設置場所の確認など、参加者が自らの地域を災害から守ろうという意識を持ちながら歩いている姿が印象的でした。また、ワークショップでは、参加者各々がまち歩きを通じて得た課題や意見などを出し合い、その意見を集約しながら、白地図に避難経路などを記載しました。

これらの作業を通じ、防災マップ・マニュアルの原案が完成しました。

その後、八月二五日に第三回目となる協議会、九月二九日に最終となる協議会を開催しました。原案の修正や確認作業、また、災害発生時の行動について再認識するためワークショップを行いました。

これらの作業を通じて、より精度の高い防災マップ・マニュアルが完成し、平成二四年度中に由良地域の世帯へ配布することとなりました。

この防災マップ・マニュアルづくりについては、由良上灘分団の団員が当初から参加しており、団員として培った経験や知識を参加者と共有し、より良いマップ・マニュアルをつくらうと意欲的に取り組みました。

編集後記

先般姫路市で発生しました工場爆発火災事故に際し、殉職されました消防職員の方にお悔やみ申し上げます。また、負傷された職員の方々の一日も早い回復をお祈りいたします。

近年、大規模な災害が増加しておりますが、消防団員の皆様が活動される際も、現場での安全確保にはくれぐれもご注意ください。

これからますます寒さが増し、暖房などの火の気を多く使う季節となります。乾燥した日も多くなつて参りますので、火の取り扱いには十分に注意していきましょう。



- ・操法最適ホース : コンベVシリーズ
- ・小型動力ポンプ : ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般



西垣消防器具製作所

669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461

TEL:(079)672-3131

FAX:(079)672-3132

E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp



消 防 服

消防設備点検・消火栓器具

キンバイホース 兵庫県特約店

株式会社 三 浦 消 防

姫路市龍野町1丁目1の2

TEL 079-292-0447 FAX 079-298-8663

URL <http://www.msyoubou.com/index.html>

E-mail msyoubou0447@s9.dion.ne.jp